

ながおき こんごう
長沖 金剛

種 別 国登録有形文化財 建造物
登録年月日 平成27年11月17日
所 在 地 安宅町

梯川の河口左岸に位置する長沖は、明治末頃に浜茶屋として創業し、現在は料理店を営んでいる。

金剛は、長沖母屋東側に建つ平屋建の離れ座敷である。もとは安宅の廻船問屋・松村家の離れとして昭和初期に建てられた建物で、昭和21年(1946)に長沖が購入し、現在地に移築した。

間取りは、西より五畳間、十畳間、十五畳の主座敷、が一行に並ぶ。その南には広縁が配されており、広縁からは庭園を望むことができる。柱・梁などにヒノキが使われ、幅広の天井板が使用されるなど良質の材が用いられている。柱や天井は漆塗りで、障子の棧などもシンプルなものであり、格調高い書院座敷として整えられている。

当初の所有者であった松村家は、明治期に廻船問屋として活発な取引を行い、安宅湊最大の船主であった。松村家ではこの離れを特別な席の場とし、政治家の永井柳太郎や歌人の与謝野鉄幹・晶子夫妻も滞在したという。

金剛は、安宅最大の廻船問屋が北前船の交易で築いた資産を投じて建てた、接客用の離れ座敷であり、当時の建築技術の高さを伝えるとともに、当時の著名人も滞在するなどの逸話も持ち、安宅の廻船業の繁栄ぶりを今に伝えるものである。



←広縁
外観（南面庭園から）↓



←主座敷